

自己評価表

(令和元年度)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国際社会に寄与する、徳・知・体の調和の取れたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	1 誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。 2 学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。 3 一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や創造力を養う。 4 広い視野で、生涯学習社会を生き抜く自己教育力を養う。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	一定時間機に向かう習慣が定着するよう、各教科で課題の出し方を工夫するとともに、各HR・学年で学習への意識高揚を図り、1日120分以上の家庭学習時間を目指す。	C	考查発表期間は平均2時間程度学習できているが、平日は1時間弱程度しか学習できていない。	家庭学習時間確保のために、各教科では課題を出すなどの方策をとってきた。学習や進路に対する意識を高め、学習の必要性を教科や学年で連携して認識させなければならない。
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させ、授業の満足度や学習意欲を高め、教員の授業力向上に活用する。	A	生徒による授業評価アンケートの全教科平均は1・2学期とも5点満点中4.6で高評価であった。	教科内並びに教科を横断しての情報交換や研究を継続し、満足度をさらに高めたい。
		研究授業や相互参観授業週間で、年間4回程度以上授業を参観し研修を深め、教科会や学年会などでの研修も踏まえて授業力向上に努める。	B	全教科グループ、全学年での研究授業、授業研究会は計画通りに達成できた。授業研究で、教科会、学年会での情報交換は活発に行われており、他教科の意見も取り入れることができた。	研究授業や相互参観授業週間で、年間4回程度以上授業を参観し研修を深めているが、もっと他教科の授業も参観する機会を作り、教科横断的な授業のあり方についての研修にも努めたい。
	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ50人以上を目標に個別指導等を徹底し、上級資格取得の奨励に努める。	B	1級合格者は、商業関係で11名、家庭科関係で47名で、目標の50名を達成できた。	基礎となる検定試験は、確実に合格させたい。継続して述べ50人以上の1級合格を目指したい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、全校出席率98%以上を維持する。	A	全校出席率は98.0%で目標を達成している。	2学期以降欠席・遅刻等が増加している。長期休暇の過ごし方を含め、より高い意識を持って学校生活に取り組みさせる指導が必要である。
		5分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日70日以上を目指す。	C	開校日数減少の中、遅刻ゼロの日は45日に留まった。生徒の多様化に伴い一部遅刻が多い生徒がいるが、ほとんどの生徒が5分前登校できている。	遅刻を繰り返す生徒について理解を深め、個に応じた適切な指導を学年団・担任を中心に行っていきたい。
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間3回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。	A	年間3回の面接週間を持った。学年団を中心として、担任が適時・適切に生徒に向き合い、生徒理解に努めることができた。	次年度についても、担任・学年団を中心として継続して面接指導を行う中で、より生徒との関わりを深めていきたい。
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化について主体的・積極的に取り組む態度と奉仕の心を育てる。	C	生徒の環境美化への意識を高めるために、清掃時は徹底して担当場所の清掃指導に当たるように心掛けた。	環境美化担当の役割分担の一部再編を検討したい。各クラスの美化委員が中心の主体的な活動となるように、粘り強い指導による習慣作りを進めたい。
	ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行い、ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。	B	ヘルメットの無着用についての指摘は減ってきているが、交通マナーに対する指摘が増えてきた。	継続して、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を粘り強く行いたい。

領域	評価項目	具体的目標			
進路指導	個に応じた進路保障	早期から進路意識を高める機会を充実させ、多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーションなど）に対応した計画的な進路指導により、希望進路達成率100%を目指す。	C	大学入試改革が進められる中、英語共通ID導入が見送られることによる混乱があった。AO入試等が年々難化しており、対策への取組に、苦勞する生徒が増加している。	大学入試に対応できる応用力を伸ばすとともに、基礎学力の定着を徹底するなど、個のニーズに応じた指導を追求していきたい。
	進路指導力の向上	早期から計画的な進路指導を行い、多くの教員が業者や大学等の説明会に参加し、情報を校内のネットワークシステムを利用して全体で共有する。	B	模試等の結果分析を積極的に発信する等、校内ネットワークシステムを有効に活用できた。	入試が大きく変わる学年となるため、模試等の分析だけでなく、様々な入試情報を全体で共有できるよう努めていきたい。
	キャリア教育の推進	インターンシップの事前指導や取組を活かし、生徒が自ら考え、行動する力を育てる。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など職業理解の機会を増やす。	B	インターンシップについては、進路希望に応じて地元企業中心に選定するよう今年度から変更し、将来を見据えた取組にすることができている。	新しい方式でのインターンシップを定着させるとともに、各学年で実施している探究活動を、より生徒のニーズに即したものにしていきたい。
特別活動	部活動の充実	運動部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合体育大会において、100人以上の参加を目指す。	C	年度途中の退部者が増加している。愛媛県高等学校総合体育大会への参加は、昨年度の97名から75名へ減少した。一方、男子サッカー部がeスポーツで県優勝し国体に出場、野球部が秋の県大会で準優勝し、四国大会に出場した。	入学時のオリエンテーションで、3年間継続の重要性と意義を強調したい。部員確保や退部者を減らすよう、部活動運営を工夫したい。県総体出場生徒100名以上は、各部活動の奮起に期待し、達成したい。
		文化部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭等において、4つ以上の部と20人以上の参加を目指す。	D	年度途中の退部者が増加している。愛媛県高等学校総合文化祭に3つの部で18名が参加した。目標達成まであとわずかであった。吟詠剣詩舞は他校生と合同で、全国高文祭への出場権を獲得した。	入学時のオリエンテーションで、3年間継続の重要性と意義を強調したい。部員確保や退部者を減らすよう、部活動運営を工夫したい。県高文祭参加生徒4部以上20名以上は、是非、達成したい。
	生徒会活動・家庭クラブ活動委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。	B	生徒会活動は、役員の人数を規定通りに減らしたが、協力体制を構築し対応できている。家庭クラブ・委員会活動ともに概ね活動の目標は達成できている。	生徒会役員は、各役員に責任を持たせ、さらに充実した運営を行いたい。現在男子の役員が2名しかいないので、男子の積極的参加を促したい。
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。	B	生徒へ各種ボランティア活動の案内を積極的に行った。ボランティア活動に取り組む機会も増え、関心を持ち自ら参加を呼びかける生徒もいた。	ボランティアの案内や手続きを円滑に進め、担当教員との連携を密にし、充実した活動になるようにしたい。
同和・人権教育	人権・同和問題学習の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動に加え、人権委員による校内研修会や現地研修会などを実施し、生徒に主体的に人権問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	B	障がい者施設との交流、人権作品の出品、現地研修や人権作文の発表など、地域の啓発活動に積極的に参加することで生徒の人権意識を高めることができた。	事前研修会などで人権委員会の活動や映像資料を担当に紹介するとともに、人権作品鑑賞会を企画しホームルーム活動に生かしていけるようにしたい。
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行い、親しみやすく開かれた学校づくりに努める。	B	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で情報を的確に発信できた。「学校案内」は、内容を大幅刷新した。ホームページは、新しく構築し直し、毎日更新することに努めた。	発行物やホームページを通じて、よりタイムリーな情報を発信していきたい。小中学校との交流を図るなど、より地域に開かれた学校づくりに努めていきたい。
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	PTA・同窓会や地域の諸団体の協力を仰ぎながら、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」等で、地域人材を活用した体験学習を実施する。特に、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、SDGsの観点からふまえた授業等を実施し、特色ある学校づくりに努める。	B	地域の様々な方面の方々と協働し、地域人材を活用した講演会や実践を行うことができた。特に、ライフデザイン科では、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、特色ある学校づくりに努めた。生徒は、地域の大人と関わりを持つ機会を持つことができた。	地域との関わりの中で、生徒にコミュニケーション能力を付け、将来、地域を支えるリーダーが育つような協働プロジェクトを進めていきたい。持続可能な開発目標の観点から、継続して地域の方々との協働し、商品開発やイベント参加などの研究成果が目に見える形にしていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。